

第15回ユネスコスクール全国大会 第4分科会

ユネスコスクールを動かす教職員とは？

～ 活気のある学校づくりの秘訣 ～



尾道市立重井中学校 藤本 弘興

重井中学校の概要①



重井中学校の概要②



▲かつては除虫菊の生産で隆盛



▲造船関連企業がてがける因島のオリジナル野菜しまなみリーフ

明治22年 昭和28年 平成18年
御調郡重井村 → 因島市重井町 → 尾道市因島重井町

人口は 昭和40年頃 現在
5000人 → 3500人

人口減少と少子高齢化が課題

重井中学校の概要③



細島の人口は
平成7年 85人 → 令和2年 27人 高齢化率70%超
重井町の課題は **持続可能な地域社会づくり**



▲重井東港から見た 細島



▲尾道市公営渡船 **こまたき**
重井西港と細島を15分で結ぶ

ユネスコスクール加盟のねらいと取り組みの実際①



▲本校に隣接する因島鉄工業団地

本校卒業生でもある経営者の願い

**重井の子には出会いと体験が不足している。
体験を通して成長させてもらいたい。**

幼・小・中 11年間を同一集団で生活する生徒の疑問

**先輩、高校生になったらどうやって友達を
作ったらよいのですか？**



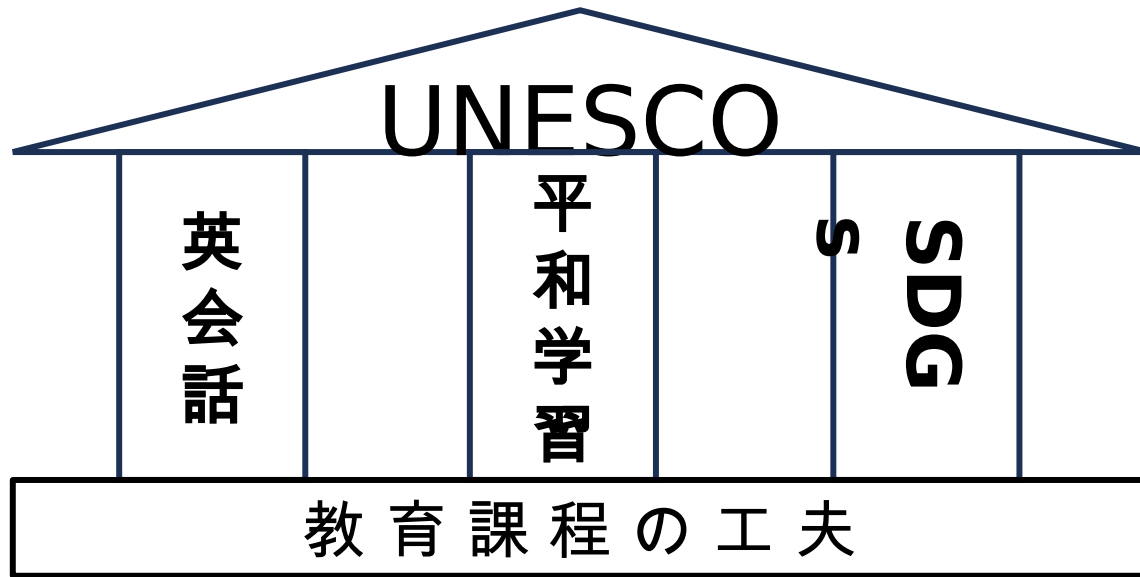
地元企業からのご協賛をいただいて実施する

豊かな「人間力」育成のための体験活動推進事業

ユネスコスクールへの加盟による

ユネスコスクールのネットワークを活かした **出会いの創出と情報発信**

ユネスコスクール加盟のねらいと取り組みの実際②



「平和学習」を実施

- ・ ユネスコ憲章
「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」
- ・ 特別授業「因島空襲」
- ・ 特別授業「モルドバで見たこと感じたこと、そして今思うこと」→道徳の自作資料に

「英会話」の授業を実施

- ・ 英語の教科書を使用せず、英語の教員も指導しない。
- ・ 県教委からの特別非常勤講師の措置
- ・ 1年生20時間、2・3年生各15時間
- ・ 好きな理由
小学生「英語の歌やゲーム」
中学生「友達や先生との英語でのやりとり」
- ・ 3年生は台湾のランタン校と英会話での交流

SDGs 持続可能な地域社会の一員として

- ・ 平成30年7月西日本豪雨による浸水・がけ崩れ
学区内の善行寺では500基の墓が流された
- ・ 高齢化が進む重井町の避難所では
中学生には支援者の役割が求められる
→図上演習、避難所開設ゲーム、炊き出し体験の実施
- ・ 模擬会社の収益金を地区の社会福祉協議会へ寄贈
→「かまどベンチ」設置費用の一部として活用
- ・ 海のSDGs

ユネスコスクール加盟のねらいと取り組みの実際～マスコミに取り上げたいいただいた活動の一部

読 売 新 聞 (R03/10/05)



修学旅行代わり海体験

尾道市立重井中3年

新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止になった修学旅行の代わりとして、尾道市立重井中の3年生が4日、同市因島重井町の瀬戸内海でマリンスポーツを体験した。

同校では毎年2年生の時に実施する修学旅行を昨年は延期していた。しかし、3年に進級してからも全国的に感染が収まらず中止に。代替行事として、子

シーカヤックを楽しむ生徒ら(尾道市で)

もの海難れを憂慮する船舶修繕会社などが協賛金を出し、体験会を企画した。

この日、15人が3グループに分かれ、島を1周するクルージングや、シーカヤック、ウェークボードなどに挑戦。因島マリーナ内のマリンスポーツショップス タッフらの指導を受け、水遊びを楽しんだ。磯野結奈さん(14)は「地元なのに海から見るとまた知らない美しい景色があちこちにあることに気づいた」と笑顔を見せた。

令和5年2月10日(金) 尾道新聞

重井中の「雪山体験学習」 地元企業が協賛し支援金



昨年のスキー体験

スポーツ体験学習や古寺めぐりなどおこなっている。さらに昨年度末に文科省からユネスコスクール・キャンディート校の指定を受け、独自の「英会話」授業を実施し、海外の生徒と交流し、グローバルな人材の育成に取り組んでいる。

昨年度に引き続きスキーを通して生徒の体験の幅を広げようと「雪山体験学習」を実施する。

実施にあたって地元企業が協賛、経済的支援をしている。8日現在、6社の協賛、日々増えており、16日当日に発表するという。

地元企業が学校の学習体験に経済的支援をするのは全国でも稀なことで、称賛されている。

〔平田元成〕

因島重井町、重井中学校(藤本弘興校長)は16日、地元企業の協賛による「雪山体験学習」をおこなう。

同中の1、2年生29人が庄原市西城町油木、ひろしま民の森スキー場に行き、午前10時から3時間半程度、スキーを楽しむ。2年生は昨年にも雪山体験をしたが、1年生は初めてで、雪に触れることをたのしみしている。

重井中学校は昨年度から地元企業の協賛を得て、「豊かな人間力の育成のための体験学習推進事業」を展開

ユネスコスクール加盟のねらいと取り組みの実際～マスコミに取り上げたいいただいた活動の一部



光明寺で記念撮影

郷土尾道を知る、ふるさと学習を 重井中生が古寺めぐり

尾道市立重井中学校 藤本校長は「尾道市は、歴史ある町です。ふるさと学習の一環として、尾道市を代表する寺を訪ね、その歴史や文化について学びたい」との思いで、今年3月20日、重井中生が古寺めぐりを行いました。この日、重井中生は、尾道市を代表する寺を訪ね、その歴史や文化について学びたいとの思いで、今年3月20日、重井中生が古寺めぐりを行いました。

色があったので面白かった。その感想が寄せられた。藤本校長は「SDGsの観点で考えれば、尾道市は歴史ある町です。ふるさと学習の一環として、尾道市を代表する寺を訪ね、その歴史や文化について学びたい」との思いで、今年3月20日、重井中生が古寺めぐりを行いました。



長蛇の列ができた「シゲイ マルシェ」

シゲイマルシェは完売 盛況だった重井町民文化祭

尾道市立重井中学校 藤本校長は「尾道市は、歴史ある町です。ふるさと学習の一環として、尾道市を代表する寺を訪ね、その歴史や文化について学びたい」との思いで、今年3月20日、重井中生が古寺めぐりを行いました。

重井中生が柑橘収穫体験

尾道市立重井中学校 藤本校長は「尾道市は、歴史ある町です。ふるさと学習の一環として、尾道市を代表する寺を訪ね、その歴史や文化について学びたい」との思いで、今年3月20日、重井中生が古寺めぐりを行いました。



柑橘は5月まで待つ。などの感想があった。藤本校長は、今回の収穫体験は、今年も大盛況だった。

今回の柑橘収穫体験では、重井中生が古寺めぐりを行いました。その感想が寄せられた。藤本校長は「SDGsの観点で考えれば、尾道市は歴史ある町です。ふるさと学習の一環として、尾道市を代表する寺を訪ね、その歴史や文化について学びたい」との思いで、今年3月20日、重井中生が古寺めぐりを行いました。

今回の柑橘収穫体験は、今年も大盛況だった。その感想が寄せられた。藤本校長は「SDGsの観点で考えれば、尾道市は歴史ある町です。ふるさと学習の一環として、尾道市を代表する寺を訪ね、その歴史や文化について学びたい」との思いで、今年3月20日、重井中生が古寺めぐりを行いました。

柑橘収穫体験だけでなく、多彩な体験学習を行いました。その感想が寄せられた。藤本校長は「SDGsの観点で考えれば、尾道市は歴史ある町です。ふるさと学習の一環として、尾道市を代表する寺を訪ね、その歴史や文化について学びたい」との思いで、今年3月20日、重井中生が古寺めぐりを行いました。

ユネスコスクール加盟のねらいと取り組みの実際～マスコミに取り上げたいいただいた活動の一部

令和4年12月20日(火) 尾道新聞



飯ごう炊さんやゴミ拾いも 重井中が地域発見遠足

尾道市立重井中学校(藤本弘調校長)は、全校生徒参加の「地域発見遠足」を、2日(日)に実施した。

重井中では、かつて授業時数を確保するために学校行事を精選する動きのなかで遠足が行われなくなっていた。このたびの遠足は十数年ぶりの開催となった。

この遠足は、地域を歩くことで地域の良さを再発見するとともに、「飯ごう炊さん」を経験し自分の意外な一面や仲間との良さに気づくことを目的としている。当日は、重井中を出

発し大浜ビュースを通って、目的地の大浜崎キャンプ場まで歩き、薪で牛井の調理を体験した。キャンプ場内のゴミ拾いを行った。

生徒たちは、火をおこすのが大変で、煙が目が痛かったけれど、仲間と協力して牛井を作ることができました。

炊き上がった飯ごう炊さんからゴミ拾いまで協力して楽しくできました。大浜にキャンプ場があることをはじめて知り、景色のよいキャンプ場なの、あまり使われな



も呼びかけたいと思います。などの感想が寄せられた。

重井中では、地元企業との協賛のもとで、人間力を育成するための体験活動の充実に取り組む、持続可能な社会づくりに向けた育成を目標としている。

藤本校長は、「この遠足を通して、自分・仲間・地域の良さを発見し、再発見してくれたので、はなやかなと思います」とコメントした。

【情報・写真提供：重井中学校】

因島重井町、尾道市立重井中学校(藤本弘調校長)の1年生11名が14日、重井の郷土料理である「しょうゆ飯」づくりに挑戦した。

同校では長年、ふるさと学習に取り組みしており、地域の方をゲストティーチャーに招いて、「しょうゆ飯」づくりに取り組んでいる。

令和2年度からはコロナ禍により、地域の方からの指導が受けられなくなっていたため、同校家庭科担当の板外志徳教諭による指導で、しょうゆ飯づくりを続けている。

由来は諸説あるが、農家の昼食が始まりだそう。山の頂上で耕して除虫剤を栽培するために山を



【しょうゆ飯の作り方】
①ごぼうとにんじん、きざんだ油揚げ、一口大のとり肉を材料に、味付けは無しで米と具材の上から鶏皮を広げ、いりごをひとつまみ入れてから炊飯。
②炊き上がる5分ほど前に、砂糖を混ぜたしょうゆを回し入れ、しっかり混ぜたら完成。

重井中生が郷土料理に親しむ しょうゆ飯づくりに挑戦

上り下りする時間をラダ、しまなみリーフのおひたしも作った。生徒からは「しょうゆ飯を知らない人にも食べてみてもらいたい」「おばあちゃんと一緒に作ったり、自分で作って家の人に食べてもらいたい」と思っています。

藤本校長は「狭い地域に伝統的な郷土料理があることは稀有なことだと思えます。生徒の

食べていたけど、家庭料理で勉強するまで郷土料理とは知りませんでした」との感想がもたらされた。

藤本校長は「狭い地域に伝統的な郷土料理があることは稀有なことだと思えます。生徒の



食べていたけど、家庭料理で勉強するまで郷土料理とは知りませんでした」との感想がもたらされた。

藤本校長は「狭い地域に伝統的な郷土料理があることは稀有なことだと思えます。生徒の



サラダに使った「しまなみリーフ」

地元産野菜でサラダを 重井中で1年生が「調理実習」

尾道市立重井中学校(藤本弘調校長)は、1年生が地元産野菜を使った「調理実習」を行った。

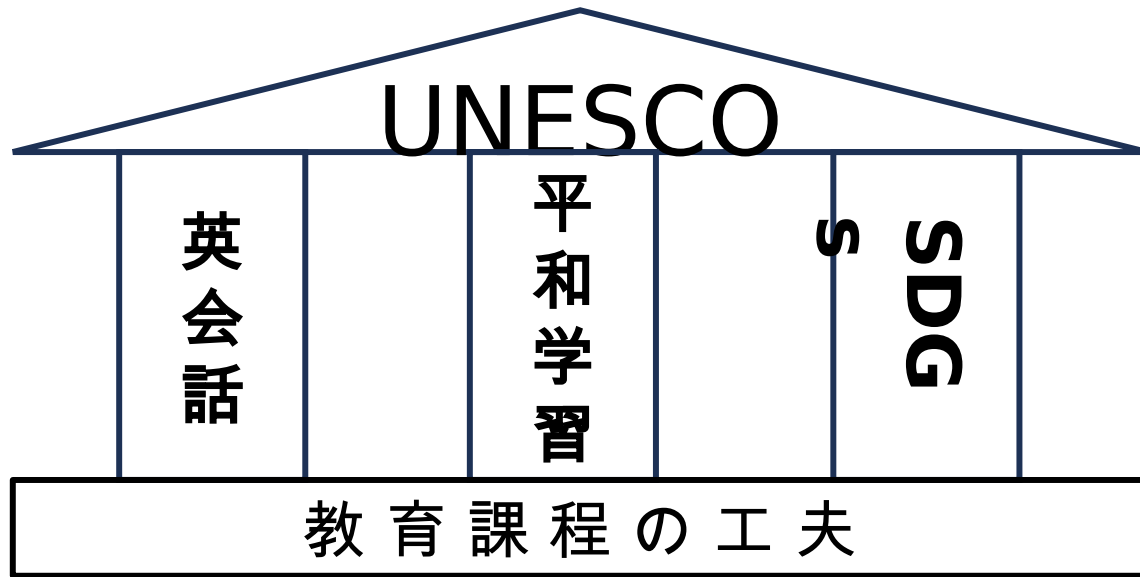
実習では、地元産の野菜「しまなみリーフ」や「大浜のトマト」などを使い、サラダを作った。

生徒たちは、野菜の切り方や調味料の量など、調理のポイントを学びました。

藤本校長は「地元産の野菜を使った調理実習は、食育の観点から非常に大切な活動です。生徒が野菜の良さを学び、健康な食生活を送るきっかけになればと思います」と話した。

【情報・写真提供：重井中学校】

ユネスコスクール加盟のねらいと取り組みの実際②



「平和学習」を実施

- ・ ユネスコ憲章
「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」
- ・ 特別授業「因島空襲」
- ・ 特別授業「モルドバで見たこと感じたこと、そして今思うこと」→道徳の自作資料に

「英会話」の授業を実施

- ・ 英語の教科書を使用せず、英語の教員も指導しない。
- ・ 県教委からの特別非常勤講師の措置
- ・ 1年生20時間、2・3年生各15時間
- ・ 好きな理由
小学生「英語の歌やゲーム」
中学生「友達や先生との英語でのやりとり」
- ・ 3年生は台湾のランタン校と英会話での交流

SDGs 持続可能な地域社会の一員として

- ・ 平成30年7月西日本豪雨による浸水・がけ崩れ
学区内の善行寺では500基の墓が流された
- ・ 高齢化が進む重井町の避難所では
中学生には支援者の役割が求められる
→図上演習、避難所開設ゲーム、炊き出し体験の実施
- ・ 模擬会社の収益金を地区の社会福祉協議会へ寄贈
→「かまどベンチ」設置費用の一部として活用
- ・ 海のSDGs

ユネスコスクール加盟のねらいと取り組みの実際③

重井中学校夏季特別講座

SHIGEI SUMMER SEMINAR

第 1 日 (8 月 1 日)				第 2 日 (8 月 2 日)		
	1 年生	2 年生	3 年生	1 年生	2 年生	3 年生
1 校時	ふるさと学習 「重井の昔と今」 「しまなみリーフ の挑戦」	「7つの習慣」 尾道高校主幹	「着こなし講 座」 カンコー学生服	防災教室 防災マップづくり 尾道市総務課	「高校生活の報告 と中学生のうちに つけておく力」 本校卒業生	「ブリカンズの 1日・1週間」 尾道高校 ラグビー部監督
2 校時	「重井のシンボル 白滝山」	「着こなし講 座」 カンコー学生服	「面接・マナー 講座」 尾道商業高校		「接客の基本」 セブンイレブン 世羅店会長	「海洋教室」 弓削商船高等専 門学校准教授
3 校時	「因島の花 除虫 菊」 「ものづくりの重 井」	「しまなみリー フの開発とマー ケティング」 岡本製作所		「瀬戸内の太平洋戦争 因島空襲」 せとうちタイムズ代表		
4 校時	夢の実現の仕方～努力で未来を切り拓く～ 岡山龍谷高等学校 校長			「スマホ・ケータイ安全教室」		NTTドコモ中国

因島空襲 重井中生学ぶ

地元紙記者の講演で



因島空襲について重井中の生徒に話す悦子さん（奥右）

尾道市因島重井町の重井中の1、2、3年生51人が2日、近くの重井公民館で1945年の「因島空襲」について学んだ。長年調査してきた

た地元紙の青木忠さん（17）の妻で、記者の悦子さん（72）＝同市因島校浦町＝の講演を聴いた。

空襲は、島南部の重工業

場が標的となり7月28日の被害が最大だったとされる。労働者や地元住民が犠牲になったが、公的な資料が残されておらず、正確な被害は分かっていない。

悦子さんは、2008年に恵さんが出版した「瀬戸内の太平洋戦争 因島空襲」などを引用。夜中まで遺体を運んだ元従業員の証言や空襲の恐怖を詠んだ女学生の短歌を紹介し、「若い世代で知る人はほとんどいない。悲劇を忘れないよう語り継いで」と訴えた。

講演は同中の夏季特別講座の一環。島では07年から慰霊祭を開いていたが、運営側の高齢化などで16年が最後となっている。3年の永川由恵さん（14）は「よく行く場所でこんなに悲しい出来事が起きていたとは知らなかった。英語を学び海外の人にも伝えたい」と受け止めていた。

（右下）奈海

ウクライナ難民の支援でモルドバへ 土屋咲子さん、重井中生に講座

「想像することを大切に。思いやり持って」

重井中学校(岡島重)は5日(月)、重井公民館で、重井公民館館長 井町・藤本弘興校長 館で、ウクライナから避難した人々の医療支援にモルドバで従事した土屋咲子さんを講師に迎え、特設講座を開きました。



重井公民館でウクライナ難民の様子を伝える土屋さん

土屋さんはかつて東欧で暮らした経験があり、「ヨーロッパは第二の故郷、恩返しをしなくては」とモルドバへ支援に行くことを決意。5月から7月までの3ヶ月間、日本からモルドバへ行った団体に加わり、医師や看護婦らと共に医療支援に従事しました。

土屋さんはモルドバ語が話せたことから、通訳や、避難してきた人々のメンタル面を支

える活動をしていました。

講座は同校の教諭とのインタビュ形式で行われ、東ヨーロッパの風景や建物の写真を見ながら現地の人々の様子を伝えました。

モルドバに避難していた人は女性が多く、夫や父と会えず先行きも分からない状況で、「みんな悲しそうで不安な表情だった」と振り返ります。

しかしウクライナのオデーサの港町では、船隻にミサイルが飛んでいる中でも夜の公園で卓球を楽しむ人がいたことなどを話し、ウクライナの人々に「人の強さや生きる力、明るさを感じました。自分の国を守るという強い意志と使命感を感じました」と語りました。

最後に中学生たちへ

「想像することを大切に

にしてほしい。目の前で自分の近くにいる人の気持ちを考え、思いやるのと同じこと。海外の人のことを想像し、思いやりを持って接することを大切にしてください。世界は広いですが、前を向いて頑張ってください」とメッセージを送りました。

生徒からは「テレビで見ると悲しい映像とちがって、人々が国や街を守ろうと必死で頑張っているという話や、国の未来を考えているという話を聞いて驚きました。ひとこととして考えたいですね」と思いました。土屋先生の勇氣と行動力に心が動かされました。多く、多くの感想が寄せられました。

【福田真紀】

ユネスコスクール加盟のねらいと取り組みの実際④

平成30年 西日本豪雨で土砂災害



職場体験の代替学習
SHIGEIMARCHE
「社会参画」を企業理念として模擬会社による模擬店の運営で販売・接客体験 → 収益金全額を地域社会へ寄贈 → 防災かまどベンチの設置



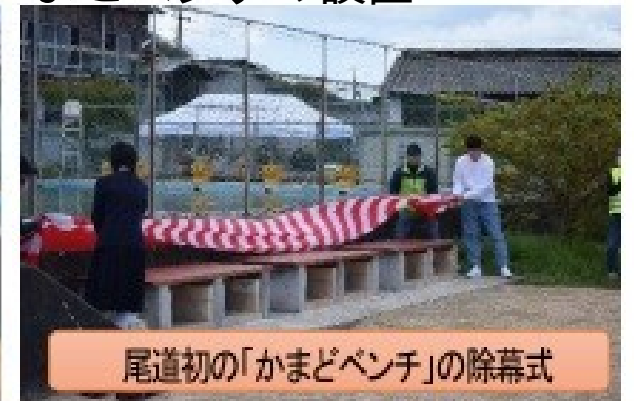
▲炊き出し体験学習
新聞紙とラップのお皿



▲避難所開設ゲーム



SHIGEIMARCHEからの寄付に感謝状



尾道初の「かまどベンチ」の除幕式

教職員の意欲を高めるために必要な取り組み①

① 職員どうしの日常会話を重視

会議で企画書を検討する

FORMAL TALK

職員室や廊下での日常会話で企画を練る

WAIGAYA TALK

② マスコミへの情報提供

自校の取り組みが
記事やニュースになると...

うちの学校のこと
じゃないみたい



なんだか、すごい
ことをしたみたい
ですね

教職員が
スクールプライドを
もつようになる

MUST プラス WANT TO
へ

教職員の意欲を高めるために必要な取り組み②

わたし、
イングリッ
シュキャンプ
をやりたいん
です



**WAIWAI
GAYAGAYA**

ランチはどうしよう？
郷土料理の「しょうゆ飯」はどうで
しょうか？
尾道いなりがいいんじゃない？



**WAIWAI
GAYAGAYA**



▲尾道いなり

クッキングタイムは生徒とAETがおのみの時間を一緒に作る「えび粉」は教職員が準備した。「英語だけで過ごした生徒たちは、英語は何か通じたけど、英語で自分の考えや気持ちを伝えるのは難しい」と、その一方映画や音楽など趣味の話が出て、嬉しかったという生徒もいた。AETの皆さんは「生徒がたくさん話をしてくれて、楽しかった。おのみのいなりを初めて食べ、とても美味しかった。生徒と一緒に作ったことも楽しかった」と感想を述べていた。藤本校長は「これからは英語によるアウトプットが求められる時代で、生徒が英語に親しむ機会を作っていくことが大切だ」と話していた。【半田元成】

教職員の意欲を高めるために必要な取り組み③ 学区内の離島 細島 を教材に

教職員のフィールドワーク **はじめて訪れた学区内の離島「細島」**



▲重井西港から乗船



▲棧橋付近にある細島の集落



▲細島の美しい海水



▲細島の神社



▲峠を越えると広がる農地



▲歴史を伝える石造物

教職員の意欲を高めるために必要な取り組み④ 学区内の離島 細島 を教材に
生徒のフィールドワーク 「細島」探検学習



▲軽トラックとともに細島へ



▲タブレットをもって散策



▲海岸での自然観察



▲はっさくを見つけた



▲山すその果樹園

1年生の学級担任は
音楽の先生



音楽の先生ならではの
学習のまとめにしてみ
てほしい

とお願い

教職員の意欲を高めるために必要な取り組み⑤ 学区内の離島 細島 を教材に

生徒個人が
俳句で学習のまとめ



光る海 瀬戸内望む 絶景地



大自然 ゴミひとつもない 海の中



細島の庭で見つけた 大自然

生徒全員の
俳句をまとめて唄に

↓
文化祭で合唱を発表

細島の唄

作詞/作曲 令和4年度生

貝殻きらり 澄んだ海
細島の海 素敵だよ
心落ち着く風景で
みんなを笑顔にさせるんだ
自然の宝庫 細島に
温かい人 光る海

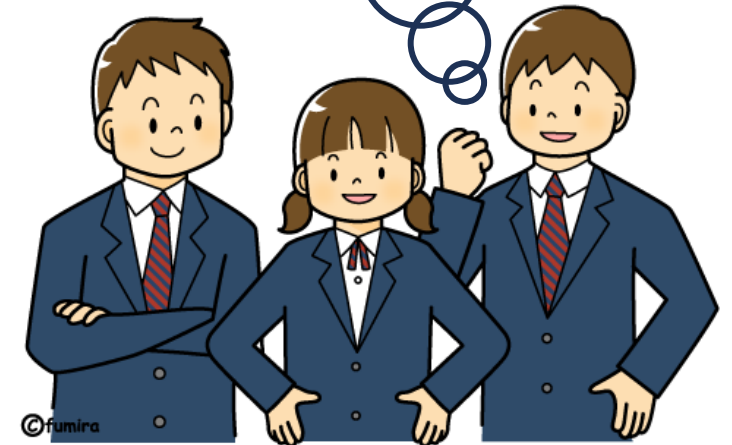
教職員の意欲を高めるために必要な取り組み⑥ 学区内の離島 細島 を教材に
代表生徒が FMおのみち に出演し情報発信



マスコミ報道で
教職員は意欲を高め、生徒は自信や誇りをもち、
地域・保護者からのご支援・ご協力が深まった。

ブラッシュアップして
細島の皆さんに届けよう!

細島行きフェリーの
桟橋で流してもらいたいな!!



教職員等の意識の変化① ～本校の学校評価アンケート結果から～

設 問 等	6 月	1 2 月
重井中は一味違うと感じる生徒の割合	93.3%	95.9%
重井中は一味違うと感じる保護者の割合	90.0%	93.0%
重井中は一味違うと感じる教職員の割合	100.0%	100.0%
重井中で学んでよかったと感じる生徒の割合	93.6%	93.9%
重井中で学ばせて良かったと感じる保護者の割合	92.5%	93.0%
重井中に勤務してよかったと感じる教職員の割合	100.0%	100.0%

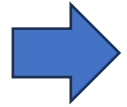
教職員等の意識の変化② ～尾道市教委の「働き方改革」アンケート結果から～

設 問 等	令和3年6月	令和4年12月
管理職は慣例にとらわれない新しいアイデアについても積極的に支援している	83.0%	100.0%
日々の業務の中で充実感を得られている	83.0%	100.0%
担当業務について管理職から理解されている	83.0%	100.0%
新たな取り組みを行う場合、スクラップアンドビルドを行っている	83.0%	100.0%
教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある	83.0%	100.0%
学校教育目標の達成に向けた取り組みに、すべての教職員が参画している	77.0%	100.0%

「教職員の働き方改革」を継続し、教育課程の改善や生徒の資質・能力を育成するためのアイデアが出せる余裕の確保、WAIGAYA TIMEの確保が必要不可欠
 そのためには、学校管理職の働き方の見直しも必要

ユネスコスクール取組・活動を継続するための工夫

令和元年度末からのコロナ禍で、さまざまな制限を受けた教育活動



各校で、教育の**目的を達成するため**の教育活動の工夫を実施

ユネスコスクール取組・活動も

前年度踏襲ではなく、

生徒の実態や社会環境の変化に対応しながら

ユネスコスクールの**目的を達成するため**の改善の繰り返しが肝要



▲瀬戸内の朝日



3年部



2年部



1年部



総務部

ご清聴いただき、ありがとうございました